

兵庫・吉田南遺跡

1 所在地 神戸市垂水区玉津町吉田

2 調査期間 一九七六年(昭51)～七九年

3 調査機関 吉田片山遺跡調査会

4 調査担当者 田辺昭三

5 遺跡の種類 官衙跡・集落跡

6 遺跡の年代 弥生～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

吉田南遺跡は、明石平野のほぼ中央部を流れる明石川の西岸に位置する。遺跡は海岸から約二キロ北上した沖積平野の一角を占め、西方は吉田・片山丘陵によって画されている。

一九七六年から七九年にかけて、神戸市玉津環境センターの建設工事に伴う事前調査として当地の発掘調査を実施したが、その結果、二万四千平方メートルをこえる調査対象地内から、弥生、古墳、飛鳥、奈良、平安各時代の遺構が、大量の遺物を伴って検出された。

このうち、奈良後半期から平安初期にかけての遺構は、掘立柱建物跡三四棟、井戸跡、大溝などである。掘立柱建物跡の中で、家屋とみられるものは一九棟あり、廂をもつもの、柵を伴うものがある。また、一五棟は総柱の建物で、いずれも倉庫跡とみられる。

これらの建物群は、大溝をはさんで東西二群に分かれるが、西群

は一〇棟の倉庫跡をふくむ計二七棟をかぞえ、しかも、ほぼ真南北線を軸として規則的に配置されている。西群の建物跡の範囲は発掘地からさらに西方へのびる模様だが、既存施設があつて調査できなかった。

掘立柱建物に伴う遺物としては、須恵器、土師器のほかに陶硯二〇点以上、銅鏡、銅製獣足、金銅製帶金具、刀子、土錘や飯蛸壺などの漁具、木器各種などがある。

当遺跡出土の木簡五点は、いずれも西群の建物跡の東北方を西北西から東南東にむかつて流れる小河川中から出土した。小河川の堆積土は数層に分かれていたが、木簡はすべて奈良後半期の遺物を伴う第四層中から発見されており、その共伴遺物から、西群の建物跡と関連するものであると考えられる。

なお、木簡出土地点付近で、橋梁遺構が発見されたが、この遺構も、建物群や木簡と同年代のものであることが、層位的検討の結果明らかになった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「葛江里常」^(給カ) 在飯十一石此^{干飯定在六石六斗}

俵二斗入^{米飯} 在一

「[・]」 飯數卅三石一斗四升^{定廿五石一斗}

15.6×10.9×0.6

(2) ・×六日

鴨郡^(伴カ) 郡^(伴カ)

□ □

大^(者カ) 郡^(里カ) 海^(里カ)

□ □

